

## 第24回健康科学市民公開講座

### 第24回健康科学市民公開講座を終えて

学術委員長 検査技術科学コース教授 中 泉 明 彦

平成23年11月12日（土）午後「小児白血病治療の進歩と今後の展望」というやや専門的なテーマで第24回健康科学市民公開講座を開催した。本テーマは、小児科医である検査技術科学コース足立教授から提案があり、学術委員会で協議のうえ決定した。日本では年間2,000～2,500人の子供が癌と診断され、小児癌は子供の病死原因の第一位であり、小児癌のなかで最も多い白血病について知ることは、市民にとって大変に重要であると考えたからである。

検査技術科学コース長の杉本教授の開催挨拶のあと、第1講では足立壮一教授から「小児白血病の治療戦略」をテーマに血液に関する基礎から小児白血病治療最先端までの話があり、第2講では国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター長堀部敬三先生から「多施設共同臨床試験と長期フォロー」をテーマに、より良い治療法を科学的に決めて医療を進歩させるためには多くの病院の大勢の患者さんの協力が必要であることや、長期生存者の増加とともに、長期フォローの重要性が増していることが述べられた。第3講では滋賀県立成人病センター研究所画像研究部門総括研究員の東達也先生が「放射線の利用と被ばく-がん、白血病発症との関連も含めて」をテーマに医療被曝や環境放射線汚染による被曝から、放射線治療の影響までを興味深く述べられた。第4講で小児白血病経験者である河村聡氏から「あきらめない心-夢と希望を持

ち続けることの大切さ」と題して、患者側からの貴重な体験をユーモアを交えて語っていただいた。

講師の方々は最先端の内容をわかり易くお話下さり、パネルディスカッションでは参加者から質問が相次ぎ、更に理解を深めることができ有意義な会合となった。

行楽日和の好天候にもかかわらず、約75名が参集してください最後まで熱心に聴講され、杉本コース長の閉会挨拶後も各講師に個別に質問される方々もおられた。

以下に60名の方が御回答くださったアンケート調査結果を簡潔にまとめる。

職種内訳は主婦26、医療関係者10、（看護6、薬剤1、内科1、その他2）、教職員4（看護1、養護学級担当1）、会社員4、無職3、大学生2、団体職員1、社会福祉士1、その他9であった。全体的な印象に関しては、大変良かった31、良かった27、普通1、無記入1であった。「患者の立場での発表に共感を覚えた」6、「1演題あたりの時間が短い（休憩が多い）」4、「講義資料を希望」1などの意見が記入されていた。今後の取り上げて欲しいテーマとしては、「がん」（2名）、「免疫異常」・「甲状腺」・「気管支・肺」・「腎機能不全と透析」・「眼底出血」（各1名）が挙げられていた。